

第 57 号刊行に寄せて

日本女子大学教育学科の会
会 長 井 上 信 子

令和 2 年、新型コロナウイルス感染症の影響により、生活様式が大きく様変わりいたしました。①三密（密閉、密集、密接）回避。②手洗いと手指消毒の励行。③マスクの着用。④ソーシャル・ディスタンスの確保、などです。その中で、急遽、大学での講義形態も、令和 2 年度前期から大きな変更を余儀なくされました。対面授業から遠隔授業への変更です。大学に集い、過ごすことが制限されるという前代未聞の事態に学生、教職員、すべての関係者が戸惑いました。初めてのことが多く、一つ一つ壁を乗り越えて、はや一年が経ちました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止策のために、前期は、すべての授業が遠隔授業となり、希望に満ちた新入生の皆さんに対する心理的配慮と環境整備、全学年の遠隔授業ツールの習得、学生の意見を取り入れながらの授業形態の確立（個々の授業の特色を活かせる形態の模索、資料・課題提示型、オンデマンド型、同時双方向型の組み合わせの試行）、教職関連の実習への影響、教育現場における混乱など様々な場面で苦悩しながらの一年でございました。

しかしながら、若く澁澂とした学生たちの前向きな思い、すなわち「学びたい！挑戦したい！」そんな思いが、このような時にこそ、一層、輝いております。そのような学生たちと、創立者、成瀬仁蔵が示した三綱領『信念徹底』『自発創生』『共同奉仕』に立ち返り、教育とは何か、人を育てることとは、人生とは、などの問いを重ね、学生たちに、力強く、しっかりと生き抜く力を育て参りたい、わたくしども教職員は、そのような思いを強くいたしております。

『人間研究』は、1964 年（昭和 39 年）に創刊されましたが、昭和、平成と経て、令和となりました。第 57 号の刊行を迎えます。『人間研究』の歩み、この 60 年近い歴史は、教育学科にとり頼もしく、そして誇らしく感じるものでございます。教育学科卒業生の、研究を継続していく姿勢、たゆまぬ努力と向上心、教育への情熱と使命、それらの熱き思いが込められた、この『人間研究』は、在校生にとりまして大きな存在として周知されていることと存じます。

『人間研究』の名の通り、よりよく生きること、また教育の理念、原点への考察、それらを教育の現場での実践にあたりどう活かすのか、実践と研究の懸け橋の役目も果たしてくれていると存じます。教育学科卒業生、教育現場の教職員はもとより、教育学科在校生からも積極的な研究の成果が発表される貴重な場として、今後も注目していきたいと考えております。

